

県政運営評価戦略会議からの「ターゲットごとの意見・提言」への対応方針等（行動計画）

番号	ターゲット	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
1	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	新型コロナウイルス感染症の影響で働き方が変化しており、基本的には徳島に住みながら、テレワークで都市部の会社に勤め、週数回出勤するという働き方が可能性として高まってきている。 このことを踏まえ、移住・交流施策について、今後は、移動コストの面で徳島から往来しやすい関西圏を重点ターゲットとしてはどうか。	地理的・経済的に結びつきが強い関西圏は、本県の人口動態の改善を図る上で重点地域であると認識しています。そこで今年度は、「大阪南の道頓堀の巨大スクリーン等や地下鉄車内のビジョンを活用し、とくしま暮らしの良さをPRする移住促進動画の配信」や「関西で人気の高いラジオ番組内で、有名MCと徳島在住の既移住者に『とくしま移住の魅力』について話してもらう番組の放送」等、関西圏でとくしま暮らしの良さをPRする事業に取り組んでいます。今後とも本県の人口動態の鍵を握る「関西圏」「若者」「女性目線」を意識した、効果的・戦略的な移住促進施策に取り組んで参ります。	政策
2	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	ウィズコロナ・アフターコロナ時代において、働き方が大きく変化する中、地方への大きな人口回帰に向けた追い風を捉え、ICTをはじめとする徳島の魅力の情報発信を一層強化してもらいたい。	全国屈指の光ブロードバンド環境と恵まれた自然環境や文化、食や体験などを最大限に活かしたワーケーションの展開をはじめとして、本県の魅力を訴求力の高い映像やWEB等様々な手段を活用し、戦略的に発信して参ります。	政策
3	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	移住・交流施策について、移住先の選定基準の一つに、密を避け、感染症のうつりにくい環境で生活できるという点が新たに出てきている。その点を徳島の魅力として発信していただけるよう今後取り組んでもらいたい。	県では、県内に点在する「リタイアインフラ」を活用し、コロナ禍のライフスタイルにマッチした「魅力あるとくしま暮らしモデル」を募集する「いいね！#徳島暮らしアイデアコンテスト」で選ばれた作品を「ライフスタイルブック」にして、広く全国に発信する事業を実施しており、コロナ禍での価値観変容に伴って高まりつつある地方分散への気運をとくしま回帰に繋げるべく取り組んで参ります。	政策
4	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	新型コロナウイルス感染症のPCR検査について、症状がない場合でも自費で検査を受けられるような運用も必要ではないか。	「無症状」だが「不安」や「渡航等の条件として必要」な方など、社会経済活動の中で本人等の希望により全額自己負担で実施する検査（いわゆる「自費検査」）については、令和2年8月28日の「政府・新型コロナウイルス感染症対策本部」において、「社会経済活動の中で本人等の希望により全額自己負担で実施する検査ニーズに対応できる環境を整備する」とされ、あわせて同年11月24日には、厚生労働省より、自費検査を提供する機関が利用者に情報提供すべき事項や、自費検査を利用する者が検査機関を選ぶ際に留意すべき事項を示されたところです。 また、現在、国において、自費検査を提供する検査機関一覧を公開しており、自費検査を受けやすい体制が整っているところであることから、県としても引き続き国の動向を注視して参ります。	保健

県政運営評価戦略会議からの「ターゲットごとの意見・提言」への対応方針等（行動計画）

番号	ターゲット	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
5	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	ウィズコロナ・アフターコロナ時代という新たな局面を迎える中、新型コロナウイルス感染症と共存しながら、より良い県政となるよう邁進してほしい。	県では、未曾有の国難「新型コロナウイルス感染症」への対応のため、検査機能の強化や医療提供体制の確保をはじめ、県民の「安全・安心の確保」はもとより、「感染症に強い徳島の創造」や「県内経済の再生・飛躍」に全力で取り組んでいるところであります。 また、「WITHコロナ」から「アフターコロナ」を見据え、「デジタル社会」や「グリーン社会」の実装をはじめ、全国屈指の光ブロードバンド環境を活かしたテレワークやワーケーションといった「新たな働き方」の実装など、地方創生を先導、加速させていくことにより、県民の皆さまに、アフターコロナを俯瞰、実感していただけるよう取り組んで参ります。	政策
6	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	「徳島ファン・ドラフト会議」の開催地については、東京都だけではなく、航空便のある福岡県や関西広域連合の地域も含めて、検討してはどうか。	新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者が一同に会する形式での「徳島ファン・ドラフト会議」の開催が制限される中、ニューノーマル社会での新たな「徳島ファン」の獲得に向けて、徳島ファンと、地域をマッチングさせるサイトにより、全国の徳島ファンと地域を繋ぐとともに、オンライン交流などを利用するなど、場所にとらわれない新たな手法を取り入れ、徳島ファンの創出・拡大に取り組んで参ります。	政策
7	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	「デュアルスクール」のモデル試行について、新型コロナウイルス感染症の影響で都市から地方への分散化が進む中、地方の魅力を伝えるときに、この取組が生きてくると思うので、制度化に向けて進めてほしい。	平成28年度からのモデル試行による成果を経て、令和2年度より本格実施に移行しています。ポストコロナ時代を見据え、ワーケーションやリモートでの仕事に関心が高まる中、県内市町村と連携しながら多くの家族を受け入れることにより、本県の魅力を発信することにつなげて参ります。	教育
8	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	光科学の先端技術など光系教育について、大学と連携しながら、高校生以下の世代への魅力発信にも取り組んでいただきたい。	県内の高等教育機関への進学促進や、光関連産業への就業促進のため、県内高等教育機関が実施する光科学に関する先端的な研究や教育内容を、高校生などの皆さんへ分かりやすく情報発信することは非常に重要であると認識しています。 現在、「地方大学・地域産業創生事業」において、徳島大学等と連携し、中高生向けに、研究者による体験イベントやサイエンスカフェ等を実施し、光科学の魅力発信や関心の醸成に取り組んでいます。 今後とも、さらに工夫を凝らし、中高生はじめ、県民の皆さんへその魅力が十分伝わるよう、取り組んで参ります。	政策

県政運営評価戦略会議からの「ターゲットごとの意見・提言」への対応方針等（行動計画）

番号	ターゲット	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
9	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	「きゅうりタウン構想」や「にし阿波・地域連携ビジネス」のような成功例について、市町村と連携して県内で横展開することにより、徳島ならではの価値の磨き上げや新たな流通網の開拓につなげてもらいたい。	「きゅうりタウン構想」で培った、研修から自立就農までの地域が連携した「担い手育成」や「次世代園芸技術」の推進については、これらのノウハウが他品目や他地域へと横展開するよう、今後とも市町村やＪＡ等と連携しながら、より一層の効果的な事業実施に努めて参ります。 また、にし阿波・地域連携ビジネス創出支援事業運営協議会では、にし阿波管内の市町や商工団体と連携し、海外をターゲットに、にし阿波ならではの素材や技術を活用した新商品開発を行っております。県内で横展開できるよう、庁内関係部局への情報共有とともに、ＳＮＳを活用して事業実績について情報発信を実施しております。	南部西部
10	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	阿波おどりの通年化について、有名連の練習風景の観光資源化に取り組むとされているが、関連する目標数値が設定されていないので、是非、具体的な取組を検討してもらいたい。	「阿波おどり」は本県が誇る伝統文化であり、最大の観光コンテンツであると認識している。「阿波おどり」の多様な魅力を知っていただくため、現在、有名連の方々の練習風景について一部公開させて頂いており、観光客の皆様には本番での演舞とともに、お楽しみ頂いているところです。今後とも、とくしまの宝「阿波おどり」の魅力発信に工夫を凝らして参ります。	商工
11	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	新型コロナウイルス感染症の影響による外食産業の低迷の事態を打開するため、「阿波ふうど」の取組を核として、市町村単位の関係者を交えた対策会議を行い、県がリーダーシップをとって、早急に課題解決の具体化に取り組んでもらいたい。	外食産業に向けた支援として、県内の商工団体等を窓口とした「WITH・コロナ「新生活様式」導入応援助成金」により、店舗・施設等の感染防止策やテイクアウト・デリバリー等の導入経費を助成するとともに、業界団体の確認による「ガイドライン実践店ステッカー」の配布など、消費者の安全・安心の確保にも努めているところです。 また、新型コロナウイルス感染症による県産食材の販売減少などの影響を受け、生産者の支援と県産食材の需要拡大を目的として、「鳴門わかめ」、「阿波尾鶏」などの「阿波ふうどメニューキャンペーン」を実施しています。 さらには、国の「Go To Eat キャンペーン食事券発行事業」の円滑な運営について、各関係機関と連携して支援しているところであり、引き続き、外食産業はもとより、「阿波ふうど」に関わる生産者の方々の支援に取り組んで参ります。	商工農林
12	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	「阿波ふうど」の認知度を向上させるため、他県の例も参考として、インパクトのあるラッピングバスを運行させることにより、「阿波ふうど」の魅力を発信してはどうか。	徳島の食「阿波ふうど」の魅力発信のため、県産品の絵柄やロゴマークをラッピングした「新鮮なっ！とくしま号」と「でり・ぱりキッチン・阿波ふうど号」の２台のＰＲトラックにより、県内外に向けてブッシュ型のＰＲを展開しているところです。引き続き、多様なツールを活用して、阿波ふうどのより一層の魅力発信に取り組んで参ります。	農林

県政運営評価戦略会議からの「ターゲットごとの意見・提言」への対応方針等（行動計画）

番号	ターゲット	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
13	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	徳島の文化について、四大モチーフに関しては、様々な取組が推進されているが、「大谷焼」や「阿波和紙」といった四大モチーフ以外の徳島が誇るべき文化についても、今後、施策の中に取り上げてもらいたい。	本県を代表する伝統文化である4大モチーフをはじめ、「あわ文化」の継承・発展に向けた取組を進めており、「とくしま文化プログラム」では「阿波和紙」など多彩な地域文化を含め、幅広い文化活動の魅力を発信してきたところです。引き続き、豊かな「あわ文化」の魅力発信に取り組んで参ります。	未来
14	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	健康で活動的に頑張っている高齢者に対して、表彰や感謝状の贈呈等を行い、顕彰することにより、アクティブシニアの更なる活躍の推進につながるのではないかと。	県では、「敬老県民のつどい」において、長年ボランティア活動を継続している方や老人クラブ等で活動している方等地域社会で積極的に活動されている高齢者を表彰するとともに、敬老の日には、高齢者の方への励みとなるよう、地域で元気に暮らしている百歳以上の長寿者に祝い状を贈呈しており、今後も取組を継続・推進して参ります。 また、高齢者の皆様が生きがいを持って生活し、地域社会の重要な担い手として活躍できる環境づくりを図るため、シルバー大学校大学院を開校しており、卒業された方は、「生きがいづくり推進員」として、社会貢献活動に取り組みまれます。また、平成27年度から、「生きがいづくり推進員」として、地域活動や社会貢献活動に協力し、功績のあった方々に感謝状を贈呈しており、今後ともアクティブシニアの皆様の活躍を後押しして参ります。	未来 保健
15	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	学校給食における地場産物の活用については、子供の頃から味覚を磨くことができ、また県内の経済が回るという一面もある。 多種多様な一次産物を生産する徳島の魅力を生かして、更に施策を推進してもらいたい。	地域の実態に応じた地場産物の供給体制が整備されてきており、天候等の影響を受けながらも、「学校給食に地場産物を活用する割合」の令和元年度の実績値は42.4%と、目標値である35%を上回ることができている状況です。 引き続き、栄養教諭・学校栄養職員研修会等において、地場産物の活用と「学校給食用レシピ&調理技術マニュアル集」(H28年度作成)活用を呼びかけて参ります。	教育
16	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	肥満傾向の児童生徒数について、新型コロナウイルス感染症の影響で、今後も外出自粛傾向が続くと生活習慣が乱れ、肥満の原因につながると思うので、学校と家庭が連携し、継続的で更に踏み込んだ取組を検討してもらいたい。	全ての公立学校において、生活習慣改善計画を作成し、取組を推進するなど、これまでの取組を引き続き推進するとともに、生活習慣改善に当たって、タブレット端末の有効活用を図って参ります。	教育
17	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	今の時代、アクティブシニアの活躍推進のためには、高齢者のICT活用能力を底上げする必要がある。 そのための取組として、例えば、高齢者の「eスポーツ」チームを推進するといった、徳島ならではの施策を検討してもらいたい。	シルバー大学校では、パソコンの習得を内容とするICTコースを設けるとともに、同大学院では、ICT講座を開講し、受講生は、「シニアITアドバイザー」の資格を取得しております。また、同大学院の卒業生は、「生きがいづくり推進員」として、ICT講座の講師などの地域活動を行っております。今後は、「生きがいづくり推進員」をはじめ、アクティブシニアの活動機会をより一層拡充し、地域の子供たちへのプログラミング講座を実施するなど新たな事業を展開し、高齢者の方々による社会貢献活動の推進に取り組んで参ります。	未来

県政運営評価戦略会議からの「ターゲットごとの意見・提言」への対応方針等（行動計画）

番号	ターゲット	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
18	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	シルバー大学校は、県内各地に設置されており、特に人気のあるICT関係の講座では、高齢者のICT活用能力の底上げという面でも一定の機能を果たしているため、引き続きアクティブシニアの活躍推進を担う事業として期待している。	シルバー大学校では、パソコンの習得を内容とするICTコースを設けるとともに、同大学院では、ICT講座を開講し、受講生は、「シニアITアドバイザー」の資格を取得しております。また、同大学院の卒業生は、「生きがいづくり推進員」として、ICT講座の講師などの地域活動を行っており、引き続き、アクティブシニアの方々の活躍を推進し、生涯現役社会の実現に取り組んで参ります。	未来
19	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	「農福連携」については、農家の人手不足と働き場を求める障がい者とのマッチングによって、課題を解決している成功例でもある。 新型コロナウイルス感染症の影響で障がい者の働き場所が減っているという状況も踏まえて、更なる事業の推進をしてもらいたい。	「農福連携」は、障がい福祉分野が抱える、障がい者の「就職」や「工賃水準の向上」、農業分野が抱える、担い手の高齢化や担い手不足を打開するための「労働力の確保」等の課題をマッチングすることで、両分野が「Win-Win」の関係を保ちながら、課題を解決できる「特効薬」であると考えております。 このことから、令和2年6月に県農業会議に農業者向け相談窓口を新たに設置するとともに、今後も、農業者、障がい者就労支援施設職員等を対象とした研修会や農作業体験等を開催するなど、引き続き障がい福祉分野、農業分野で力を合わせ、「農福連携」を推進して参ります。	保健 農林
20	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	待機児童について、希望の保育施設に入所を断られた場合、特に共働き世帯では、無理をしながらでも遠くの施設に入所している例もある。 子育て支援の施策について実情を把握するための指標としては、待機児童数だけではなく、入所を断られた数も加味すべきである。	待機児童数については、国の「調査要領」に基づき、保育の実施主体である市町村において、算出しております。まずは、待機児童ゼロを目指して、市町村や関係機関と連携を図り、保育環境の整備にしっかりと取り組んで参ります。	未来
21	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	待機児童について、新型コロナウイルス感染症で働き方が変化する中、小さな子供を持つ親の在宅ワークを推進することで、待機児童の削減につなげるような施策を検討してもらいたい。	県では、「テレワークセンター徳島」を設置し、センター内の託児所を利用しながら受講可能な「テレワーカー養成講座」を実施しており、在宅ワークなどの多様で柔軟な働き方を推進しているところです。関係機関と連携しながら、待機児童の解消を図って参ります。	未来 商工
22	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	調査によると、県内や県出身の若者は、徳島での生活の魅力として、全体的な住みやすさを実感している。 彼らが将来家族を持ったとき、帰ってきたいと思えるように、子供を産み育てやすい場所を今しっかりと整備すべきである。	子どもを産み育てやすい環境づくりのため、産前産後の母親相談事業やチーム育児の普及啓発、子育て総合支援センターの運営、在宅育児応援クーポン、保育の無料化など、今後とも「子どもたちを大切に育み、子育ての喜びを分かち合える徳島」を目指して、取組を進めて参ります。	未来

県政運営評価戦略会議からの「ターゲットごとの意見・提言」への対応方針等（行動計画）

番号	ターゲット	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
23	2「強靱とくしま・安全安心」の実装	災害対策に「新しい生活様式」を踏まえた対応策を早急に取り入れるとともに、新たな対応策に県民がスムーズに対応できるように普及啓発を組織横断的に検討すべきである。	「新しい生活様式」を踏まえた対応策として、特に避難所における感染症対策では、サブ避難所の確保やホテル・旅館の活用等「分散避難」を推進するとともに、避難所の3密を回避するため、段ボールベッドやパーティション等の資機材を整備するなど、市町村と連携し、具体的な取組を進めております。 また、コロナ禍の具体的な避難行動や避難所における感染症対策についての動画を制作し、「YouTube徳島県チャンネル」から広く配信しており、今後も、市町村をはじめ関係機関と連携し、新たな対応策の啓発を行って参ります。	危機
24	2「強靱とくしま・安全安心」の実装	今後、感染症への対応を迅速かつ的確に進めるためには、マイナンバーを医療情報等と連携させ、様々な場面で有効活用することを検討するべきではないか。	法により限定列举されているマイナンバーの利用範囲について、個人情報保護に配慮しつつ、さらなる住民サービスの向上となるよう、その拡大を図るべく国に対して提言を行いました。 また、今後、マイナンバーカードの健康保険証利用が開始されると、本人同意があれば医療機関が特定健診履歴や投薬情報等をオンラインで閲覧可能となることから、引き続き、マイナンバーカードの取得を促進して参ります。 加えて、医療機関におけるマイナンバーカードを活用した「オンライン資格確認」の早期導入を図るため、導入に係る補助制度やメリットを周知し、導入を促進して参ります。	政策保健
25	2「強靱とくしま・安全安心」の実装	小水力発電については、化石燃料や原子力発電に頼らない近い将来の自然エネルギーとして、普及促進すべき課題である。そのため、引き続き施策を推進してもらいたい。	地域における災害時の非常電源としての活用が期待できる、自立・分散型エネルギーである水力発電の普及促進を図るため、溪流に設置可能なピコ水力発電機の実証実験や相談窓口による技術支援に取組むとともに、産学官の連携等による小水力発電の先導的モデル構築を目指し、企業局の持つ技術、知識、経営手法を最大限活用した導入支援を積極的に推進します。	企業
26	2「強靱とくしま・安全安心」の実装	「漁協版BCP」等について、漁業再開や営農に際して業務継続力を発揮するためには、様々な人たちの意見をまとめるファシリテーション能力を持った人材が求められる。BCP策定に当たっては、そのような人材育成について具体的に盛り込んでもらいたい。	令和元年12月策定の「徳島県復興指針」において、現場への各種補助制度等の情報伝達や、関係者の意見集約を図る人材の養成にあらかじめ取り組むことを位置付けたところです。引き続き、平時からの普及啓発や訓練等を通して、ファシリテーション能力を持った人材育成に取り組んで参ります。	農林
27	2「強靱とくしま・安全安心」の実装	鳥獣被害について、全県的に被害が拡大しているので、防止に向けて一層施策の推進に取り組んでももらいたい。	有害鳥獣の「捕獲」や「防護」の強化とともに、捕獲鳥獣の「ジビエとしての利活用」や「担い手の育成・確保」を推進し、有害鳥獣による農作物被害額の減少に向けて、引き続き取り組んで参ります。	農林

県政運営評価戦略会議からの「ターゲットごとの意見・提言」への対応方針等（行動計画）

番号	ターゲット	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
28	3「発展とくしま・革新創造」の実装	マイナンバーカードの交付促進のため平成29年度から「徳島県ポイント」を発行しているが、「ポイント交換率を上げる」、「ポイントを交換したくなるような特産品を用意する」など、メリットを付与することで、利用が増えるのではないかと。	マイナンバーカードを保有する個人に自治体がいし物で利用できるポイントを付与する仕組みについては、令和2年9月から、マイナンバーカードを使ってキャッシュレス決済サービスの選択を行い、選択した決済サービスの利用等に対して25%、最大5千円分のポイントを付与する国の「マイナポイント事業」に呼応し、県においては、県と提携した決済事業者が提供する決済サービスを選択し、同決済による、県内の店舗での利用等に対して、マイナポイントに加えて、県独自に利用額の30%、最大3千円分のポイントを上乗せ付与する「徳島県版プレミアムポイント事業」を実施しており、引き続きマイナンバーカードの取得促進に取り組んで参ります。	政策
29	3「発展とくしま・革新創造」の実装	技術革新が急速に進む中、第4次産業革命にも対応する人材育成は非常に重要な施策であるので、行政においても、引き続き様々な取組を行っていただきたい。	新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、社会のDXの普及や第4次産業革命を牽引するデジタル技術人材の育成が急務となっていると認識しており、県では、平成長久館事業において、引き続き、高等教育機関等と連携した「第4次産業革命関連講座」の充実を図ることにより、県内企業の人材育成を支援して参ります。 また、令和2年度においては、中央テクノスクールに「ローカル5G基地局」を設置し、技能者の育成を図ることとしています。更に、県が民間教育機関に委託して行っている離職者向けの訓練においては、AI対応プログラミングやIT技能等の訓練を積極的に実施し、デジタル技術人材の育成を推進します。	商工
30	3「発展とくしま・革新創造」の実装	観光誘客の推進について、インバウンドの施策がクローズアップされがちであるが、国内観光の方がマーケットが大きいので、国内観光にもしっかりと目を向けて施策を打つべきである。	インバウンド需要の回復が困難な中、国内観光の需要喚起は非常に重要と認識しており、県民限定の宿泊割引「とくしま応援割」や、国のGOTOトラベルとタイアップした「徳島で得するケン（券）」等の国内向けの誘客促進施策を展開してきたところです。今後とも国内外における新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、早期の観光需要の回復に繋がるよう、国内誘客の強化に取り組んで参ります。	商工
31	3「発展とくしま・革新創造」の実装	新型コロナウイルス感染症の影響で旅行控えが続く中、「とくしま応援割」をはじめとした取組は、県民のニーズを捉え、かつスピード感のある対応であり、高く評価できる。次のステップに進むときには、感染の状況や関係業界をはじめとする県民の思いを十分に考慮し、方向性を決定してもらいたい。	緊急事態宣言解除後の宿泊施設への迅速な支援のため、「とくしま応援割」を実施したところ、施設からは「タイムリーである」、県民の皆様からも「徳島の魅力を再発見できた」とのお声を頂いたところです。今後、感染予防対策と社会経済活動の両立を図っていく中で、宿泊施設をはじめとした現場のご意見、ニーズを踏まえながら、早期の観光需要回復に繋げるよう、各種施策に取り組んで参ります。	商工
32	3「発展とくしま・革新創造」の実装	観光アプリについて、県外の人がこのアプリをきっかけに来県に興味を持つような仕掛けがあった方がより効果的だと思う。ダウンロード時の特典付与やアプリから観光サイトにアクセスさせる仕組みづくり等、複合的に検討してもらいたい。また、徳島県民以外の方がダウンロードし、「徳島へ行ってみよう」という気になるような仕掛けが効果的と考えるので進めてもらいたい。	観光アプリ「徳島旅プラス」は、現在、徳島県内のおもてなし施設（登録施設）を利用して専用QRコードをアプリで読み込み、スタンプを集めると徳島の特産品があたる抽選に応募できる仕組みになっています。いただいたご意見を参考に、今後、ダウンロード特典や、観光キャンペーンと連携した取組みなど、利用者増加に向け今後も工夫を加えて参ります。	商工

県政運営評価戦略会議からの「ターゲットごとの意見・提言」への対応方針等（行動計画）

番号	ターゲット	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
33	3「発展とくしま・革新創造」の実装	クルーズ客船の寄港について、乗客や観光バスの往来で大きな影響を受ける地元との調整を密に行うとともに、おもてなしの面等で地元が協力できることがあるので連携を図っていただきたい。	クルーズ客船の寄港については、地元の皆様の御理解、御協力が必要なことから、これまでも、地元への事前説明等を行ってきたところです。今後とも、地域の皆様が安心してクルーズ客船を迎えられるよう調整を行うとともに、市町村や地元の皆様と連携しながら、「徳島ならではのおもてなし」の充実を図り、とくしまファンになっていただくことで、徳島への再寄港につながるよう取り組んで参ります。	県土
34	3「発展とくしま・革新創造」の実装	農地には、農業生産の機能だけではなく、農村景観の維持、生物多様性の保全、洪水の低減といった機能もあるので、そういった観点にも配慮した上で、農地集積を進めてもらいたい。	農業・農村は、国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、景観の形成等の多面的機能を有しているため、基盤整備を伴う農地集積を行う際は、「徳島県田園環境検討委員会」での専門家の意見・指導等を踏まえ、環境配慮方針を策定・実施しているところです。引き続き、田園環境の保全対策に取り組んで参ります。	農林
35	3「発展とくしま・革新創造」の実装	水産物の養殖品種の導入は、供給の安定、漁業者の収入の安定につながり、ひいては後継者不足の解消にも寄与すると思うので、ちりめんの養殖試験など引き続き新たな魚種の導入を検討してほしい。	現在、県では、温暖化による高水温化に対応した「養殖わかめ」新品種の開発のほか、南方系高級魚「キジハタ」の陸上養殖の実装に向け、最適な飼育条件や身質向上のための餌料開発等に取り組んでいるところです。今後、新たな養殖品種の導入については、本県漁業の状況や消費者の嗜好の変化などを考慮しながら、検討して参ります。	農林
36	3「発展とくしま・革新創造」の実装	ICTを活用した遠隔授業による教育が推進される中、各家庭でのICT機器や通信の環境も考慮した上で、児童生徒が平等に教育を受けられる環境整備を徹底するとともに、教員に過度な負担をかけないように配慮してもらいたい。	「徳島県GIGAスクール構想推進本部」において、今年度整備を予定している1人1台タブレット端末の自宅など学校外での利用方法や、通信環境が未整備の家庭に対する支援策、授業手法や指導事例などの研修の実施などについて検討した結果を「徳島県GIGAスクール構想」としてとりまとめ、これに基づいて取組を進めて参ります。	教育
37	3「発展とくしま・革新創造」の実装	オンライン授業では、生徒の学習意欲の差が学びの進捗に特に大きく影響するため、生徒の主体性を磨く教育が重要になる。また、生徒の個性に応じてオンライン授業と対面授業を使い分け、皆が平等でかつ成績を上げられるような仕組みが必要である。	モデル校を指定し、ICT活用のスキルを身に付けるのはもちろんのこと、主体的かつ効率的な学習の進め方について研究を行っております。また、授業において、リアル対面とオンライン対面を融合し、授業の目的や内容に合わせた効果的なオンラインの活用を推進して参ります。	教育

県政運営評価戦略会議からの「ターゲットごとの意見・提言」への対応方針等（行動計画）

番号	ターゲット	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
38	3「発展とくしま・革新創造」の実装	GIGAスクール構想について、今非常に重要性を増している事業であるが、「人に会う」「自然を感じる」など、リアリティな実体験が少なくなることが心配である。 対面授業でしか得られない学びもあるので、バーチャルとリアリティのバランスをとりながら進めてほしい。	学習指導要領において、ICT機器活用の推進とともに、体験活動の充実が求められています。ICTを活用した学習活動を推進することはもちろんのこと、実体験を取り入れた教育活動の充実に取り組むなど、各学校において、バーチャルとリアリティそれぞれの良さを生かした教育活動を展開して参ります。	教育
39	3「発展とくしま・革新創造」の実装	小規模学校は増えており、きめ細やかな教育で充実しているとはいえ、自分の学校内での成績で満足しがちである。 学校の枠を超えて自分の成績が認識できるような仕組みづくりをすることで、子供たちの競争心や切磋琢磨の心を養ってほしい。	子供たちの競争心や切磋琢磨の意識を養うことは、子供たちにとって自己の向上や自己実現につながるものであり、学校においては、道徳教育や学級活動、部活動等様々な教育活動において取り組んでいます。また、学校の枠を超えて小規模学校の子供たちが、「全国学力・学習状況調査」や「県学力ステップアップテスト」の結果により、自分の位置を認識し、更なる学力向上を目指し、取り組めるよう支援して参ります。	教育
40	3「発展とくしま・革新創造」の実装	高知県との合区で行われた参議院選挙では、徳島県の投票率は非常に低く、将来の有権者となる児童生徒に向けた主権者教育の充実がますます重要となっている。	小・中・高等学校のそれぞれの段階において、政治や選挙に関する理解と参加意識を高めるとともに、模擬選挙などの体験的学習を実施することにより、社会に参加し、自ら考え、自ら判断する主権者を育成する教育の充実を図って参ります。同時に、保護者をはじめとする子育て世代に対する広報も実施します。 また、県教育委員会では、平成29年3月に作成した「学校における主権者教育を推進するための指針」に基づき、主権者教育に関する教員研修会の実施、県内大学や市町村選挙管理委員会と協力した出前講座の実施、高校生が社会の在り方を自分事として考えるハンドブックの配布などに取り組んでいます。今後も、よりよい社会の形成に積極的に取り組む児童生徒を育成して参ります。	政策教育
41	3「発展とくしま・革新創造」の実装	「全国学力・学習状況調査」について、本県は「知識」に関する問題より「活用」に関する問題が弱いということである。 いろいろな知識を活用する能力がより重要であると考えられ、そこが弱いことは問題ではないか。活用する能力を伸ばす教育を展開してもらいたい。	鳴門教育大学と連携し、全国学力・学習状況調査の問題分析を行い、児童生徒たちに身に付けさせたい力を養うための授業例を作成し、それをもとに小中学校授業づくり研修会を実施するとともに、教師の授業力を上げることで、子供たちの活用力をはじめとする学力を向上させる「授業改善」推進校事業を実施しています。また、1人1台導入されるタブレット端末を有効活用し、児童生徒の個々の状況に応じた学習を推進し、活用する能力を伸ばして参ります。	教育

県政運営評価戦略会議からの「ターゲットごとの意見・提言」への対応方針等（行動計画）

番号	ターゲット	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
42	4「躍動とくしま・感動宝島」の実装	文化を考えるとときに徳島市の音楽ホールがないというのは、非常に大きな課題だと思う。徳島市民だけでなく、多くの県民が利用するので、徳島市と連携してなるべく早く良い音楽ホールをつくっていただきたい。	県市協調による「新ホール整備」の検討を進め、実現に向けて取り組んでいるところであり、本県文化芸術の拠点として、県都のランドマークに相応しい施設整備を進めて参ります。	未来
43	4「躍動とくしま・感動宝島」の実装	「マチ★アソビ」について、運営体制には変更があったものの、引き続き、これまで県を挙げて育ててきた徳島のアニメ文化を発展させてもらいたい。	全国に「アニメの聖地とくしま」のイメージ定着を図った「マチ★アソビ」については、今年度は、春は新型コロナウイルスの影響により開催中止となったものの、秋については規模を縮小し、新しい生活様式に対応する形式で開催されたところです。 今後においても、「マチ★アソビ」の灯を消すことのないよう、関係団体と連携し、参加する皆さんが安心して参加できるイベントとしての開催に向け取り組んで参ります。	商工
44	4「躍動とくしま・感動宝島」の実装	「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録への施策について、「ふるさと納税制度」によるクラウドファンディングを活用した遍路道の整備や遍路小屋へのWi-Fi設置の取組は、徳島ならではの施策として高く評価できるので、引き続き、世界遺産登録に向けて施策を推進してもらいたい。	クラウドファンディングを活用した遍路道や遍路小屋の整備等については、これまでの取組成果を踏まえ、今年度策定予定の「徳島県文化財保存活用大綱」における文化財の修理や環境整備に対する支援策のひとつとして位置付け、市町村に取組として拡充するとともに、引き続き、NPO法人や民間団体の活動を支援するなど県民参加型の四国遍路文化の保存・活用事業を推進して参ります。	未来
45	4「躍動とくしま・感動宝島」の実装	トップアスリートの育成強化について、中高の体育大会での団体種目の入賞が少ないという結果が出ている。団体競技はいざ中学校で始めるとなっても、すぐにはできない地域がある。小学校の頃から指導が受けられるなど、児童が団体スポーツに取り組むことのできる仕組みをつくってほしい。	小学校の体育授業において、「ゴール型」、「ネット型」、「ベースボール型」のボール運動の学習を通して、集団競技の攻防の仕方や技能を身に付けるよう指導しています。 また、「あわスポーツ・ブルームング戦略事業」で小学校体育連盟と連携し、競技力向上中央講習会や郡市別講習会を実施し、小学校教員の指導力向上を図り、小学生の競技力向上を図って参ります。 さらに、「はつらつサポート事業」で徳島ヴォルティスと徳島インディゴソックスの選手・コーチを小学校の体育授業に派遣し、集団競技の攻防や基本技術の向上を図るとともに、両チームの協力で、「走・跳・投・蹴」の動きを中心とした運動テキストを作成し、体力の向上や基本動作の習得を支援して参ります。 加えて、県出身選手が全国大会や国際大会で活躍できるよう、中長期的な展望に立ち、優れた才能を持ったジュニア選手を発掘し、一貫した育成システムの充実を促進するとともに、子どもから大人までが参画できる拠点づくりや高度な専門的能力を有する指導者の育成を支援する「徳島育ち競技力向上プロジェクト」を実施して参ります。	未来教育

県政運営評価戦略会議からの「ターゲットごとの意見・提言」への対応方針等（行動計画）

番号	ターゲット	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
46	4「躍動とくしま・感動宝島」の実装	アスリートの育成強化について、国体や高校総体で結果を出すためには、マイナースポーツにも力を入れて強化するとともに、トップ選手に対するフォローについてどこに重点を置くべきか、方針を再検証することが必要ではないか。	アスリートの育成・強化については、毎年、国民体育大会種目の41競技団体を対象に実施するヒアリングにおいて、課題やニーズを把握し、必要な支援に努めて参ります。また、トップ選手に対しては、オリンピック出場または国民体育大会等全国大会での活躍が期待できる本県関係選手の活動に必要な経費に対し補助を行っており、今後も、毎年競技実績等を考慮の上、有望選手に対する支援を積極的に行って参ります。 また、県教育委員会では、各競技団体と連携しながら、有力競技の集中強化やお家芸競技の創出に取り組み、科学的なトレーニングを実施することにより国際大会や全国大会等で活躍するトップアスリートの育成・強化を図って参ります。	未来教育
47	4「躍動とくしま・感動宝島」の実装	勝浦町における恐竜化石の発見については、非常に貴重な資源であり、集客力もある。 文化の森総合公園での展示による児童等への教育をはじめ、様々な場面で積極的にこれを有効活用してもらいたい。	国内最古級に相当する勝浦町の「恐竜化石」については、引き続き、発掘調査及び分析を推進するとともに、県立博物館「新常設展」の目玉展示の一つとして有効に活用して参ります。また、県内における移動展・イベントの開催や恐竜グッズ開発の協力などにより、恐竜情報を積極的に発信し、「恐竜王国トクシマ」の実現に向け、取り組んで参ります。	未来

県政運営評価戦略会議からの「ターゲットごとの意見・提言」への対応方針等（行動計画）

番号	ターゲット	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
48	5「循環とくしま・持続社会」の実装	「循環とくしま・持続社会」の実現には、しっかり取り組まれている。 しかし、地球温暖化の影響が問題となる一方、熱中症の予防の観点から冷房の重要性が高まるというジレンマもあり、すぐには成果が出てこない分野かと思うが、引き続き重点的に取り組んでもらいたい。	令和2年5月から10月に実施した「徳島夏のエコスタイル」では、「新たな生活様式」に合致した無理のない節電を呼びかけ、同時に自然エネルギー導入推進による「脱炭素社会の実現」に向けた施策を展開しています。 気候変動対策推進計画（緩和編）では、施策の基本方針に「環境と経済の好循環」を掲げ、経済や社会と環境を同時に向上させる取り組みを行っているところであり、引き続き、「環境首都とくしま」として、全国の環境対策をリードする取り組みを推進して参ります。	危機
49	5「循環とくしま・持続社会」の実装	人工造林の推進に当たっては、担い手を育成する取組が実施されているが、作業現場の奥地化が進んでおり、急傾斜のため作業への負担が大きくなっているという問題もあるので、それについても軽減する対策が必要である。	省力的な「コンテナ苗」による人工造林を普及・推進しているほか、ドローンによる森林資源の調査や、ICT技術を活用した林業位置情報システムの構築による安全対策などスマート林業を推進し、作業現場の負担軽減対策に引き続き取り組んで参ります。	農林
50	5「循環とくしま・持続社会」の実装	食品ロスの解消のためには、大人に向けた取組だけでなく、学校給食でも食品残渣が多く出ていることから、子供の頃から食べ物の大切さを伝える教育に取り組む必要がある。	県政運営評価戦略会議において、「子どもの頃から食べ物の大切さを伝える教育に取り組む必要がある」との提言を受けたことから、数値目標に「小中学生に対する『食品ロス削減』啓発人数（累計）」を追加し、食品ロス削減に向けた小中学生への普及啓発を強化して参ります。	危機
51	5「循環とくしま・持続社会」の実装	自然エネルギーについては、脱炭素社会の実現や災害時の電力安定供給につながるため、小水力発電のほか潮流発電など様々な方法で取組を推進してほしい。	電力自給率向上、自立・分散型電源の導入促進にむけて、企業局、農林部局とも連携し、小水力発電ほか潮流発電など様々な電力の導入に取り組んで参ります。	危機
52	5「循環とくしま・持続社会」の実装	コウノトリについて、先般、耕作放棄地に餌場のビオトープが完成したが、今後、他の場所でのビオトープの整備に当たっては、県と鳴門市が協力し、整備計画の後押しとなる支援をしてもらいたい。	コウノトリ関連の取組については、コウノトリ定着推進連絡協議会や特定非営利活動法人とくしまコウノトリ基金等と連携を密にし、ビオトープをはじめとする定着促進支援を行っているところです。 また、ビオトープの更なる整備に向け、地元農業者や関係機関と連携し、国事業の活用も併せ、取組の検討を進めたいと考えています。 今後とも、関係機関と一層の連携を図り、積極的な支援を行って参ります。	危機 農林

県政運営評価戦略会議からの「ターゲットごとの意見・提言」への対応方針等（行動計画）

番号	ターゲット	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
53	5「循環とくしま・持続社会」の実装	「徳島県SNS」の利用登録数について、徳島県の数値のみではどう評価すべきか判断が難しいので、比較考量できる他県の情報を数値目標の考え方・算定根拠として記入してもらいたい。	数値目標の考え方・算定根拠については、都道府県によって様々であり、全国的に設定されているものではありません。 県では、「徳島ならではの」魅力を、より多くの方々にお届けするため、身近な情報伝達手段であるSNSを活用した情報発信を積極的に行っています。 今後においても、SNSを活用した戦略的な広報を展開し、若者や外国人などターゲットに応じた情報発信を行うことで、本県の認知度・注目度の更なる向上を図るとともに、「徳島県SNS」の利用登録数増を目指して参ります。	経営
54	5「循環とくしま・持続社会」の実装	ふるさと納税について、財源確保の観点だけでなく、徳島ファンを広げるという観点からも、全国へ徳島の魅力を発信するチャンスであるので、寄附金額の増加だけではなく、寄附件数も更に上げられるよう尽力してもらいたい。	全国に徳島の魅力をアピールする効果的なツールであり、また「返礼品」として県産品の需要拡大を図ることのできる「ふるさと納税」を最大限有効に活用していくことが、非常に重要と認識しています。 そのため、令和2年12月に庁内の若手職員や関係団体で構成する「タスクフォース」を設置し、返礼品の充実・拡大や効果的なPR手法の検討等に取り組んでいるところであり、今後とも、全国から本県へのふるさと納税の寄付金額・件数を増やし、徳島ファンの拡大につなげて参ります。	政策
55	5「循環とくしま・持続社会」の実装	全国初となる木造4階建ての県営住宅の整備を図る「awaもくよんプロジェクト」について、徳島の林業にとっても非常に良い取組であるので、市町村をはじめ、他の公共建造物等へ普及させてほしい。	建築基準法改正による「新しい設計法」を用い、全国に先駆けて「あらわしの木造4階建て」県営住宅にチャレンジする「awaもくよんプロジェクト」については、これまでも、「設計コンペ」における「公開プレゼンテーションの実施」や「Youtube配信」等によって、県内外の建築関係者に向けた情報発信を行っているところであり、引き続き、積極的な情報発信に努めて参ります。 また、こうした先進的な事例も契機としつつ、引き続き、県産材需要の拡大を図るため、公共建築物の木造・木質化を推進するとともに、オフィスや店舗など非住宅分野への利用を促進して参ります。	農林県土